

## 北海道の製糖産業を支えるテンサイ直播適性の解明と選抜実証

- 1 代表機関・研究統括者  
国立研究開発法人 農研機構北海道農業研究センター 松平 洋明
- 2 研究期間：2019～2021 年度（3 年間）
- 3 研究目的  
テンサイ栽培で近年増加している直播栽培において多収となる品種・系統の適性要因を解明し、直播適性系統を獲得する。また、将来の普及が見込まれる狭畦密植の直播栽培への適性要因を解明する。
- 4 研究内容及び実施体制
  - ① 慣行の畦間条件下での直播適性要因の解明と適性系統の獲得  
主産地や病害多発条件で直播・移植栽培を比較し、多収性と関連する品種・系統の特性を解明し、直播栽培での系統選抜を行う。  
(道総研北見農業試験場、道総研十勝農業試験場、日本甜菜製糖株式会社、北海道糖業株式会社、農研機構北海道農業研究センター)
  - ② 狭畦密植直播栽培条件における適性要因の解明  
狭畦（畦間 45cm）と慣行（畦間 60cm）の直播栽培試験により狭畦密植条件で糖量が多い適性系統を見出し、その要因を明らかにする。  
(農研機構北海道農業研究センター、日本甜菜製糖株式会社)
- 5 達成目標  
直播栽培で糖量が多い“直播適性”、ならびに狭畦密植で糖量が多い“狭畦密植適性”の要因が解明されるとともに、直播適性系統を 1 つ以上獲得する。
- 6 期待される効果・貢献  
獲得した直播適性系統は、その後、最適な利用方法を開発して品種登録を行う。また、直播適性・狭畦密植適性の要因解明とこれらの適性を具備する新品種育種法が開発され、テンサイ育種に活用される。

